

大草谷津田生きものの里 自然観察会

セミの抜け殻みつけ

山下美佐子（東金市）

日 時：2016年8月21日（日） 10時30分～12時 天気：曇り時々晴れ

参加者：18名（大人10名・子ども8名）指導員：2名

担当指導員：太田慶子 山下美佐子



台風接近で実施が危ぶまれましたが、無事実施で一安心。蒸し暑い不快指数100%セミの大合唱の中、元気な虫網をもった親子連れが集まりました。始まりの時間10時半を過ぎてもパラパラと参加があり、セミの標本などを見てもらい、全員がそろったところで、スズメバチ等の注意後、今回のセミの話開始です。参加者に成体と抜け殻の標本を見せながら、「セミの抜け殻が見つかるということは、その場所の近くにセミ

がいた印で、抜け殻探しには意味がある」と説明。参加者にセミの抜け殻を探してケースに入れてもらうよう、ケースと実物サイズのセミの抜け殻イラストを渡し、出発。林の中に入ると参加者は次々とセミの抜け殻を見つけていきます。地面の穴を見つけた子に、セミの幼虫が出てきた穴だね。深さはどのくらいかな？と問いかけ、棒切れを入れてみると、5cm位。「木の根っこの汁を吸って3年以上過ごし、成虫になる前に地上に出るタイミングを5cm位のところで待っているんだよ」と話す。更に奥へ入っていくと、参加者達は、昨日の雨で死んでいるセミやミミズにたかっているオオヒラタシデムシの幼虫や成虫を多数発見。「これは森の生き物の死骸を食べてくれる、森の掃除屋さんだよ。でも死骸を食べてバイ菌を持っているからさわらないでね」と伝える。また、参加者は、ヤマタニシやオオミスジコウガイビル、ハリガネムシなど、次々に発見して、「観たことない」等と目を輝かせていました、谷津田では、オニヤンマやギンヤンマ、オオシオカラトンボなど観て、虫網を振り回した小さな子ども達。しかし、残念ながらトンボの飛翔力にはかなわないようでした。集めたセミの抜け殻は、前日の雨のせいで、湿ったものが多く、木の幹ではほとんど見つけることができませんでした。小さな子ども達の参加が多く、大急ぎで広場へ帰り、セミの抜け殻の種類分けを参加者と一緒に行いました。ヒグラシ32、アブラゼミ50？（ミンミンゼミとアブラゼミの種類分けは時間がなくできなかった）、ニイニイゼミ8、ツクツクボウシ9という結果でした。この夏はヒグラシの数が少なく（例年50位）、雨の影響でしょうか？

参加者は、たくさんのセミがいることがわかり、抜け殻も種類によりいろいろあることがよく解った等の感想をいただきました。